

青森・富山
支店
支店間でオンライン
商談会を実施

県境をまたぐ移動が制限されるなか、富山県内の食品製造業者の販路拡大と、青森県内の小売業者の商品力向上を支援するため、オンライン商談会を実施しました。地方支店間で開催するのは初めての試みで、富山県からは米菓や日本酒、冷凍鱈ずしを扱う企業などが参加しました。

参加者からは「地方都市同士での商談会はおもしろい取り組み」「新たな発見もあり、今後の商品開発に生かしたい」などの感想が寄せられました。

5月26、27日、参加者…食品製造業12社、小売業4社



オンラインで商談する富山県の食品製造業者

本 店
農業DXの推進に関する
包括連携協定締結

6月28日、農林水産省と日本公庫農林水産事業本部は相互の連携強化を図り、「農林水産省共通申請サービス(eMAFF)」を活用することで、農林水産業および食品関連産業分野におけるデジタルトランスフォーメーション(DX)を実現するため、包括連携協定を締結しました。連携事項は、「eMAFFに関すること」「その他農林水産業および食品関連産業のDXの推進に必要と認められる事項に関すること」です。

デジタル技術を活用した事業活動および経営を推進し、ひいては農業DX構想の実現に寄与します。



調印式にて。農林水産省大臣官房サイバーセキュリティ・情報化審議官信夫隆生氏(右)、農林水産事業本部長新井毅

編集部からの
お知らせ

『アグリ・フードサポート』誌のご案内

『アグリ・フードサポート』誌は、農林漁業者、食品事業者の皆さまの経営発展のために活用していただくことを目的に、日本公庫農林水産事業本部が2005年より発行しています。

最新号の「2021年度第1号」では、人材不足対策特集として先進事例を紹介しているほか、リニューアルした「財務・課題見える化ツール」を詳しくご案内。その他、日本公庫農林水産事業のサポートメニューや資金メニューを掲載しています。

経営者の皆さまのお手元においていただき、折につけ、活用して

いただける誌面づくりをしています。最新号は公庫ホームページでも掲載をしていますので、ぜひご覧いただき経営にお役立てください。なお、バックナンバー誌も掲載しております。こちらも併せてご利用ください。

冊子をご希望の方は、編集部または最寄りの支店農林水産事業にお問い合わせください。

公庫支店も公庫ホームページでご案内しています。

アグリ・フードサポート誌は、今年度年2回発行する予定です。次号は、経営事例集として12月に発行予定です。



ホームページのご案内

『アグリ・フードサポート』誌
最新号およびバックナンバー



日本公庫支店
農林水産事業の所在地など



財務・課題見える化ツールのご紹介

決算情報をもとに財務状況を分析し、経営課題の把握をお手伝いするツールです。前号に引き続きご紹介いたします。

日本公庫農林水産事業では、お客さまの財務状況を表やグラフでわかりやすく示す「財務・課題見える化ツール」を提供しています。

前号では、お客さまの財務構成や各種財務指標を業種平均の決算と比較してお示しする「業種平均比較シート」をご紹介しましたが、今号の「時系列比較シート」では、お客さまの5年間の決算データの推移、お客さまおよび市況データとの比較を、グラフを用いてわかりやすくお示しします。

対象業種は稲作、露地野菜、施設野菜、果樹、施設花き、きのこ、酪農、肉用牛（肥育）、養豚（一貫）、採卵鶏、ブロイラーで、個人経営・法人経営どちらのお客さまでもご利用いただけます。お申込みは、最寄りの日本公庫支店まで、お気軽にご相談ください。

日本公庫支店は
こちらから
アクセスできます



時系列比較シート（例：酪農）

お客さまの5年間の決算データの推移と市況データとの比較をグラフで示します

時系列比較シートでわかること

- 「業績（損益）の推移」【図1】では、お客さまの過去5年間の経営規模と、売上高・キャッシュフロー（償却前経常利益）の推移をグラフ化して表示します。
- 「市況との比較」【図2】では、お客さまの過去5年間の販売単価・飼料購入単価の推移と、市況の推移をグラフ化して表示します。

それぞれのグラフを見比べることで、売り上げやキャッシュフローの増減が相場や配合飼料の価格変動の影響をどの程度受けているか、検証することができます

図1 業績（損益）の推移

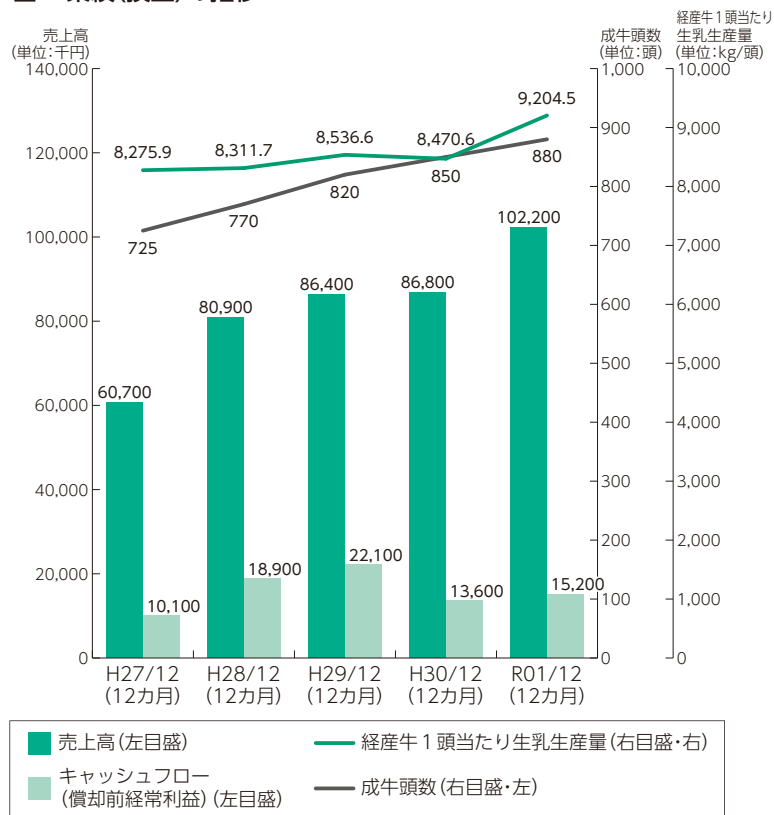
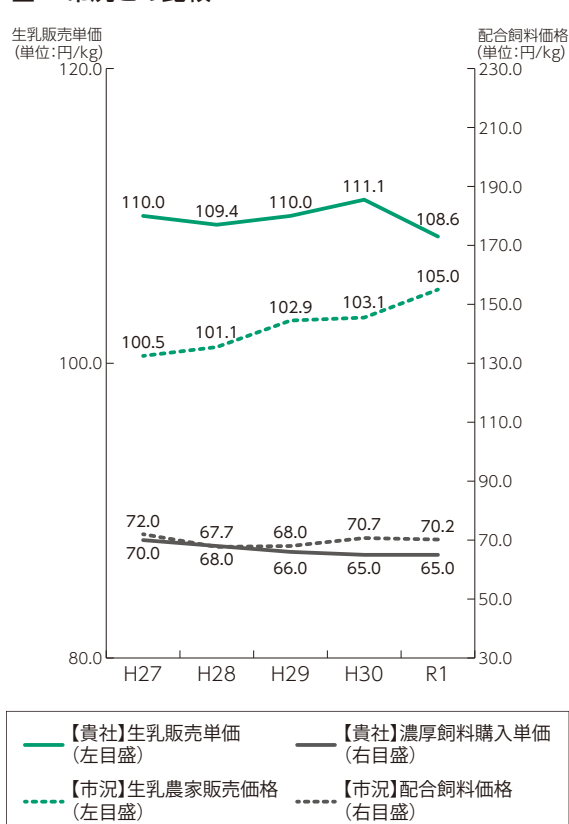


図2 市況との比較



ご意見・ご感想をお寄せください

AFCフォーラムは農林漁業者、食品事業者の皆さまに役立つ誌面づくりをめざしています。参考になった記事、取り上げてほしい企画、お気付きの点など、メール、FAX、電話、郵送により編集部までお寄せください。掲載させていただいた方には薄謝を進呈します。

メール anjoho@jfc.go.jp

※こちらのコードも
お使いください →



FAX 03-3270-2350

電話 03-3270-2268

郵送 〒100-0004

東京都千代田区大手町1-9-4

日本公庫農林水産事業本部情報企画部

AFCフォーラム編集部あて

◆毎月、本誌の発行を心待ちにしています。農業経営アドバイザーになって1回目の資格更新をすませました。昨年、地元茨城県から依頼され、生産者に対し主に経理、税務に関する指導をしています。生産者や県庁の方から多岐にわたる質問を頂きますが、本誌にはそのヒントになるような記事が目白押しで、大変参考になります。その道における第一人者の貴重な体験談もあり、何度も何度も読み返して指導に役立てています。いつの日か、「T-iD B-i-t」に投稿する日が来ればとの思いもありますが、まずは農業に理解のある税理士として究めるべく、生産者の意見に耳を傾けながら、次の更新審査に備える所存です。

(茨城県水戸市 松崎 恭生)

◆6月号「地域再生への助走」の高知県室戸市のむろと廃校水族館の若月館長の記事で、自分が抱いていた「水族館」のイメージが見事に崩れました。心がワクワクし、自分もこんな水族館に行ってみたい気分が駆られました。日本では今、若い人が大都市に集中していますが、地方にも元気になってもらわねばなりません。そのためには、むろと廃校水族館のように、今あるものを最大限に活かして地域に人が戻ってくるような魅力ある仕事づくり、地域づくりが求められているのではないのでしょうか。これからも、地域が再生・復活するような取り組みをしている人々の紹介をしていただきたいと思います。

(福岡県岡垣町 岸本 純子)

編集後記

◆特集は農産物流通のデジタル化を取り上げました。農水省の信夫審議官に農業DX構想の全体像について解説をいただき、また、実際にIoTを活用して農産物流通に取り組みされている民間事業者2社に取り組みを紹介してもらいました。農業の発展には生産段階に加え、流通段階における省力化・自動化・効率化は欠かせません。今後の動向にも注目です。(平野)

◆この1年でテレワークやセルフレジなど、私たちの生活もデジタル化が進みました。数年後はどうなるか、正直なところ、まだ想像できません。さて、デジタル技術は農業分野にどのような変革をもたらしていくのでしょうか。本号の特集では、農業分野でのデジタル改革の最新の動きを紹介しています。ぜひ農業の未来図を描いてみてください。(山本)

◆「変革は人にあり」の寺川社長。完成されていると思われていた仕組みから引き算してみると、いろんな可能性が見えてくる」という言葉には、思わず膝を打ちました。農業やビジネスに限らず、「これはこういうものだから」と、気付かないいうちに思考停止していることが多々あるな、と日々新たな視点で臨みたいですが（まずは原稿執筆から！）。(大谷)

◆巻頭言、酒場詩人の吉田類さんをアトリエに訪問。案内してもらった庭は白い砂利石で天の川を表現するなど遊び心たっぷり。のびのび育ったオリブとピスタチオの樹に「実がなったら酒のつまみにする♡」。コロナ禍にも「楽しいことを見つけ経済を回す」を軽やかに実践中でした。読者の皆さま、今宵の一献は？ 表紙帯は小麦色です。(城間)

AFCフォーラム 2021.8

編集

前田 美幸 平野 伸介 高雄 和彦
山本 晶子 大谷 香織 城間 綾子
竹中 夕美

編集協力

青木 宏高 村田 泰夫

発行

株式会社日本政策金融公庫
農林水産事業本部

〒100-0004

東京都千代田区大手町1-9-4

大手町フィナンシャルシティ ノースタワー

Tel. 03(3270)2268

Fax. 03(3270)2350

E-mail anjoho@jfc.go.jp

ホームページ <https://www.jfc.go.jp/>

印刷 佐伯印刷株式会社

販売

株式会社日本食糧新聞社

〒104-0032

東京都中央区八丁堀2-14-4 ヤブ原ビル

Tel. 03(3537)1311

Fax. 03(3537)1071

ホームページ

<http://info.nissyoku.co.jp/koudoku/>

お問い合わせフォーム

http://info.nissyoku.co.jp/modules/form_mail/

定価 523円(税込)